

第5回会議の意見・質問と回答一覧

序章から第4章までについて

No.	委員	頁	意見・質問	計画への反映
1	原	5	SDGsを前提として議論されてきたわけではないので、取って付けた感がある。計画にSDGsの魂を込めるべきではないか。	分野別方針でSDGsに該当する部分を精査し、本計画への取り組みによってSDGsに貢献できるような内容に整理しました。巻末の参考資料にSDGsと都市マスの関係性をまとめた表を掲載します。
2	木内	52	同じ区域マスの酒々井との連携について明記するべきである。分野別方針の魅力の向上にも項目を入れた方がいい。	分野別方針の都市の魅力向上(p52)に、酒々井町の本佐倉城など、本市と歴史的に深い繋がりのある近隣自治体の資源との連携を図ることについて追記しました。
3	塚田	55, 56	ユーカーが丘は人口が増加している一つの地区としてとらえるべきである。地域区分の「志津地域」を「志津(ユーカーが丘)地域」などとしてほ	志津地域の表記を「志津・ユーカーが丘地域」に改めるとともに、p56の表中の各地区の区分を廃止します(地域・地区の範囲の変更はありません。)
4	松浦	60, 84 (42)	地域別方針の「公共交通利用圏の状況」の図で、人口密度が高いエリアで利用圏に含まれていないところがあるが、公共交通空白地域なのか。市としてはこれらの地域についてどのように考えるか。	公共交通利用圏の状況の図は、現状と新たなコミュニティバス路線の予定を記載したものです。点在する交通空白地域については、課題としてとらえており、分野別方針の都市交通(p42)に追記しました。
5	木内	61, 62	新町図書館の建て替えの目的について、地域の活性化を図るというのはいまいである。地域への波及効果なども踏まえた内容で、集積による拠点性の向上の視点で記載するべきではない	ご意見を踏まえ、「現行計画の主要課題に向けての取り組み状況」の中で、拠点性の向上の視点での地域活性化の取り組みについて追記しました。
6	塚田	61, 62	商工会議所では市立美術館と新図書館の相乗効果を期待している。	
7	松浦	61, 74 85, 96	地域別方針の「地域資源の数」について、公共施設を列挙したもののように見えるので、「地域資源(公共施設)の数」などとしてはどうか。	ご意見を踏まえ、「地域資源(公共公益施設の数)」と修正しました。
8	友崎	61, 74 85, 96	弥富地区での青年団などによるどんと焼きなどのコミュニティについて記載してほしい。また、根郷地区には寿大学があるので、この取り組みについても記載してほしい。	祭りや風習、市民カレッジなどについて、各地域の地域資源として追記しました。
9	木内	65 ~ 68	佐倉地区での重点的な取り組みについて本計画にも重点的に記載するべきではないか。	佐倉地区に地域資源等の多様な要素があることは認識していますが、特定の地区の施策を前面に押し出すことはせず、他地域とのバランスを考慮しながら、各地域の個性をどう活かすかといった記載をしています。
10	松浦	99	和田・弥富地域の将来像に「関係人口」のニュアンスを追加するべきでは	ご意見を踏まえ、将来像の説明文と基本的な方針に関係人口について追記しました。

「第5章 計画の実現に向けて」について

No.	委員	頁	意見・質問	計画への反映
1	鈴木	107	第5章が計画全体のまとめの位置づけであれば、単に分野別方針や地域別方針と表現するのではなく、記載箇所を明示するなど分かりやすくすべきではないか。	計画全体の構成をおさらいする形で、将来像、分野別方針、地域別方針について追記し、分野別方針、地域別方針の表現を分かりやすくしました。
2	原	107	第5章の冒頭に第4章までの要約が必要ではないか。	
3	木内	107 ～ 111	佐倉らしさを感じられず、どこの市にも当てはまるような内容となっている。佐倉ならではの記載とするべきである。	冒頭の説明文に将来像や各方針についての説明を加え、分かりやすくしました。 「①市民が主体のまちづくりの推進」(p108)の中で、総合計画を基に具体的な事業を例示しました。 それ以外の取り組みの方向性については、特定の事業に限定した書き方は困難なため、原案どおりとしています。
5	友崎	108	人材の育成について、市民大学やコミュニティカレッジは全国的に先進的な取り組みなので計画に取り入れてほ	「①市民が主体のまちづくりの推進」の中で、市民がまちづくりに関わることができる様々な機会の例示として追記しました。
4	木内	108	記載内容の主体を明らかにするべきである。	「(1)まちづくりを担う民間の人材や担い手の育成、協働」において、行政、市民、民間企業の協働のイメージ図を追記しました。
6	鈴木	109 110	PPPやPFI、PDCAなどの専門用語は一般市民にとって分かりにくいので、平易な日本語にするべきではないか。	専門用語は出来るだけ使わず、平易な表現とします。専門用語を使う必要がある用語については、巻末に用語集を用意し、必要に応じ同じページ内で注釈を付します。
7	塚田	109	民間の活力の活用の部分で、民間が動きやすい、動きたいと思えるような記載内容にしてほしい。PPPなどの取り組みは項目を分けた方がいいのでは	PPPなどの民間企業との連携の取り組みについては、目的、対象を明確にして、段落を分けて追記しました。